

園だより

7月号

令和5年6月30日
新宿区立西戸山幼稚園
園長 佐藤 淳穂



「電車、あつまれ！」

園長 佐藤 淳穂

年長組のクラス前の廊下には、電車の模型がずらりと並んでいます。電車は5歳児が進級当初から作り続けているもので、牛乳パックを土台にした作品です。現在はその数が30本あまりになっていて、鉄道ファンならずも心が躍る、見ごたえのあるコーナーになっています。

牛乳パックの閉じられた注ぎ口が新幹線の顔の部分に見立てられ、それぞれ自分なりのイメージやこだわりが実現されています。数冊の乗り物図鑑を広げて見比べたり、車体のデザインを知りたくてタブレットで調べたりし、毎日コツコツと時間をかけて仕上げています。ビニールテープで車体に色が付き、窓やドアが貼られると、牛乳パックの側面の牛のイラストはすっかり消えて、見事に電車になっていくのです。1両編成の作品が多いのですが、製作者自慢の5両編成という長い電車もあります。

自分の思った通りに出来上がると、電車は廊下を走り始めます。パンタグラフが付いているものや、ドアの位置が本物と同じようになっているものもあります。そのうちに、山手線や京浜東北線、半蔵門線など普通列車も並び始めました。

飾っただけではもったいない、ということで、4歳児の誕生会で電車を紹介することになりました。催しのタイトルは、相談の結果「電車、あつまれ！」に決定したというので、私の期待は大きく膨らみました。



誕生会が後半に差し掛かり、いよいよ「電車、あつまれ！」が始まりました。正面の台の上に、ティッシュの箱をつなげて作った駅が二つ置かれました。「高田馬場」と「新大久保」の駅名の表札が付いています。「銀河鉄道999」のBGMが流れると、Aさんがマイクで「1番線に山手線がまいります。」と言って、電車を持って登場しました。マイクの声が響き、本当にホームの駅員さんのアナウンスのようです。山手線が高田馬場の駅に停車したその時です。3人組が現れ、画用紙で作った携帯電話のカメラで撮影を始まりました。いわゆる「撮り鉄」です。普段の遊びの中で使っていた携帯電話がきっかけで、披露される電車を撮影することにしたそうです。時々、向きを変えて自撮りをするので笑ってしまいました。

次にBさんがマイクを持ち、「2番線に虹電車がまいります。」と言いました。確かにその電車には虹色のラッピングが施されていました。その後、次々に「3番線に、かがやきがまいります。」「4番線に、のぞみがまいります。」「5番線に総武線がまいります。」といろいろな電車がやってきては駅に停車しました。写真を撮られるのがうれしい様子です。観客の4歳児は、目をパチパチさせて夢中になっていました。

誕生会の後、参加していた4歳児が「ユーチューブを観てるみたいだった！」と言いました。その感想が年長組の心をつかんだ様子で、出演者は満足そうでした。今日の経験が、「もっと工夫してみよう。」という興味の追求につながり、一人一人の自信となり、4歳児にとっては年長組への憧れになると思います。誰かの興味が横に広がり、誰かのアイデアが遊びのストーリーを紡ぎ、そして、受け止めて共感してくれる存在がいる幼稚園という子どもたちの世界。遊びの中に豊かな学びのチャンスが散りばめられていることをあらためて感じました。